

堅志学通信 令和3年度 第3号

※堅志学とは三原高校における「総合的な探究の時間」の呼称です。

三原高校^{けんしがく}の堅志学では、
「データサイエンス」に関する
探究活動を行っています。三原市
の活性化に関する課題発見・解決
を探究する「みはら2030」プロ
ジェクトの生徒が、GoogleEarthを活用した地域情報分析に関する講座を行
いました。

データサイエンスとは？

一言で言えば、「社会に溢れているデータから《価値》を引き出す学問です」。現代の社会では、ICTを駆使して大量の情報を処理・分析する能力の必要性が高まっています。大学でもデータサイエンスを研究教育する学部を新設する動きがあります。

授業の風景や生徒の学びの様子



GoogleEarthに様々な統計データを取り込むことで、地図と情報を統合し、可視化しています。



竹原市立竹原中学校出身の生徒の課題発見
『「病院からの距離」と「65歳以上の高齢者分布」を比較すると、高齢者が多いのに病院からの距離が遠い集落がある。病院を作れば解決できるけど、現実的には難しいと思う。この課題の解決には違うアプローチが必要だ』

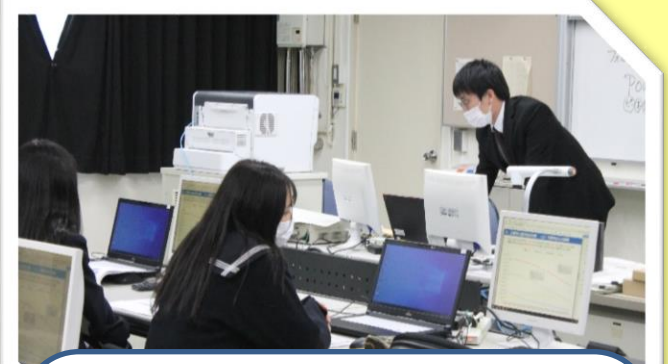
生徒の振り返り

【広島大学附属三原中学校出身の生徒】

データを活用して地図上で立体的に見ることで、今まで気が付かなかった新しい点に気が付くことができた。三原市は三原市周辺に人口が集中している一方で、中山間地域にも広く分布していることが分かった。駅から離れた地域についても考えていかないといけないと思った。

【三原市立第二中学校出身の生徒】

地図上の写真や統計データなどの情報の更新頻度について関心が湧いた。データや統計はいつの頃のものなのかによって内容が変わってくるので、正しい情報分析のためには情報の正確さについても確認しながら、作業を行っているといけないと思った。



本授業は三原市が採択された総務省事業「令和3年度多様な広域連携促進事業」の一環として行われ、三原市や福山コンサルタントの職員の方のサポートを受けました。1月下旬には品川女子学院（東京都）の生徒と研究成果について交流会をオンラインで行う予定です。